

2025年度 各授業学習目標・授業目標 科目名：2年歴史探究

高等部教育目標	
イエス・キリストを通して、人と世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心と真摯な態度を備えた人格を培う	
探究型カリキュラム教育/学習目標	
Mastery for Service を体現する世界市民の一員として、国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を育成する/身につける	
探究型カリキュラムにおける5つの学びの方針 Five Principles for Learning	
1. 自分事として <オーナーシップ/一人称>	2. 社会/実践を通して <PBL型/アクション>
3. 知識を大事に <自ら得る知識/高める関心>	4. コミュニケーションを通して <自分/他者のやりとり>
5. 生徒・教員が共に <共に探究する関係性>	
上位学習目標	
<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人類の長い歩み」について、正しい知識を身に着けている。 ・過去から現在に至る道筋を整理して、現在の持つ意味を確かめている。 ・未来を築こうとする時に、それを役立てようとしている。 <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史上に表出した出来事の中から、自らの関心に基づく問題について調べ、その解決方法を考えている。 ・自ら採り上げた歴史上の問題点を、多角的に考察し・批判的な検証を行っている。 ・課題を自ら調べ、そこから得た知識や考察といった成果を、他者に向けて発表しようとしている。 <p>【学びに向かう力・人間性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら立てた問い・結論付けたことを、社会的に披露・伝達しようとしている。 ・先人の歩み・先行研究を謙虚な姿勢で学び、その上に知の集積を行おうとしている。 	
下位学習目標	
<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史とは何か、という根源的な事を理解している。 ・フィールドワークを含む様々な手段を用いて、知識を集め・理解を深めている。 <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先行研究を比較し、自分の価値観を検証しようとしている。 ・課題探究に際し、歴史的な見方（多角的・批判的な考え方）を働かせて、考察しようとしている。 ・探究した結果、その成果について、効果的に他者へプレゼンテーションしようとしている。 <p>【学びに向かう力・人間性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史から問いを立てる際、それを調べるのが現在・未来へどのように生かされるかを考えている。 ・問を立てる際に、歴史の時代をすぐ特定するのではなく、視野を広げて探求しようとする事ができる。 	

< 1 学期 >

授業日	4/15(火)	1 学期授業回数	1 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 ----- 本時の具体的な目標 ・「歴史とは何か」 根本的な事を理解する。「歴史の検証」 様々な手法・それぞれの長短について学ぶ。 ・「歴史の探究」は、現代・未来へ役立つのか。		
時間 授業内容	5 時間目 6 時間目	各地に有る「円錐形の山」を見て考える。固定観念にとらわれていないか？ 「歴史とは何か」。各自の考えを述べ・学会の定説を知る。「戦争について」	
評価方法			
宿題指示	オリエンテーションのため、特に定めず		

授業日	4/22(火)	1 学期授業回数	2 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 ----- 本時の具体的な目標 ・ 関西学院構内の歴史遺産を探索するフィールドワーク ・ 「関西学院大学博物館」見学		
時間 授業内容	5 時間目 6 時間目	関西学院キャンパスの中にある、歴史的な遺産の数々を見学。まずは高等部の校舎を出てチャペル前にある「ソテツ」・引き続き大学院 1 号館前にある「門扉」を見学。いずれも原田キャンパス時代に合ったものを上ヶ原に持ってきたということを知る（ソテツは新たな株をわけたもの）。引き続き社会学部裏にある「関西学院構内古墳」を見学する。その後近くにある「上ヶ原用水分水樋」を見学。最後に「関西学院大学博物館」を訪問し、展示を見学。高等部に帰った後、総括するレポートを作成	
評価方法	見学時に作成したレポートを評価。		
宿題指示	特になし。		

授業日	4/30(木)	1 学期授業回数	3 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 ----- 本時の具体的な目標 ・ リサーチクエストの立て方・間違っただて方・5W1H について ・ 「戦争についての格言」 ・ 「ウクライナ戦争について」		
時間 授業内容	5 時間目 6 時間目	2 年間にわたって立てる「問い」についてのレクチャー。調べ学習と探究の違いを学ぶ。人間の歩みの中で、途切れることのない「戦争」についての先人たちが遺した格言を知る。中でも東洋における孫臏「孫子の兵法」、西洋におけるクラウゼビッツ「戦争論」を採り上げ、その要点を学ぶ。特に孫子の兵法については、各自さらに調べた。 ロシアによる「ウクライナ侵攻」について、ロシアの目線に立った解釈を映像で確認、ロシアは大国であるが、常に他国から侵略され続けてきた歴史（ナポレオン・WW I・WW II）があり、常に被害者意識を持っている事を知る。そこで次なる被害を避けるため他国との間に緩衝地帯を求め、それがウクライナにあたることを学ぶ。ロシアの言動と「孫子の兵法」の乖離を確認。	

評価方法	授業中配布したプリントの内容		
宿題指示	次週に行うディベート「ロシアのウクライナ侵攻は、自衛のため当然である」の下調べ・準備		
授業日	5/13(火)	1 学期授業回数	4 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 ----- 本時の具体的な目標 ・現在進行している「ウクライナ戦争」は、主に西洋からの情報によって日本人は知ることになる。そこでロシアの視点に立ち、戦争に正当性があるのかなど、多面的な検証を行う。		
時間 授業内容	5 時間目	ディベートの準備	
	6 時間目	ディベート「ロシアのウクライナ侵攻は、自衛のため当然である」 原則 2 人一組となつて 3 対戦を行う。それぞれ論題に対して「肯定」・「否定」・「司会」と立場を変えて行った。当初西側メディアの情報を中心に、ロシアを非難する考えが圧勝すると思われたが、「ロシアは一度もヨーロッパを侵略したことがない」「ソ連が解体する際、ウクライナは NATO 入りしないという約束があった」、「ゼレンスキー大統領が積極的に NATO 入りを公言したことがロシアの恐怖という旋律に触れた」、といった主張が高校生には印象深かったようで、ロシアの主張を代弁するディベートの評価が増えた。（絶対的な数はウクライナよりだが）	
評価方法			
宿題指示	試験に向かうため、特になし。		

授業日	5/27(火)	1 学期授業回数	5 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 ----- 本時の具体的な目標 ・「日本人の成り立ち」と「移民問題」		
時間 授業内容	5 時間目	日本人のルーツはまず「縄文人」が南北から日本へ入り、時代を経て「渡来系弥生人」と呼ばれる人が朝鮮半島経由で流入。その後ミックスして現在の日本人になる、という従来までの考古学・人類学的手法で紹介した。その後縄文時代と弥生時代について学び、伊丹市にある縄文・弥生二つの異なった特徴を持つ集落が、約 5 0 0 年間にわたって共存していた事実を伝える。	
	6 時間の	6 時間目には最初「最新科学 DNA の解析」に関する映像を視聴する。従来判別不能とされてきた 9 8 % のデータが、最新の科学の発達で利用可能となり、そこから太古のことがわかるようになってきた。とくに日本に当初入ってきた縄文人が、アジアのどの地域の特徴とも異なる DNA を持つことが分かった。日本人がアジアの他地域と異なることが多いのには、理由があったということである 最後に現代の移民問題は、アフリカで生まれた人類が世界に旅立ってきた歴史とよく似ているという文化人類学者の視点を紹介。現在の移民問題に生かすことはできないか。	
評価方法	配布したプリントの内容や授業中の発問に対する思考		
宿題指示	次回ディベートの準備		

授業日	6/3(火)	1 学期授業回数	6 回目 / 全 9 回
本時	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】		

学習目標	本時の具体的な目標 ・「日本の昔ばなし」ができた背景、そこから移民についての問題を考える。	
時間 授業内容	5 時間目 6 時間目	<p>生徒が小さい時に見たり聞いたりした「日本昔ばなし」の中で、印象的な物語を3つ挙げ、それを隣の人と共有する。そのあと『WEB 歴史街道』のアンケートにより、読者によるベスト10を発表。1位にノミネートされたのが『桃太郎』。ちなみに生徒のアンケートでも桃太郎が1位。そのあらすじを互いに確認してプリントへ記す。その後『まんが日本昔ばなし』の映像を約10分視聴。その際小さいときには気づかなかった疑問点をメモさせる。視聴後に皆でその疑問点を共有。なぜ桃から生まれたか・なぜ犬・猿・キジがお供をするのか・きび団子を食べるとなぜパワーアップするのか・なぜ鬼が退治されなくてははいけないのか…といったクリティカルな疑問点が挙がる。</p> <p>昔ばなしができた背景を説明。道徳・忠君愛国の精神を注入するため、意図的に編まれたことを説明。また「桃太郎」に関する伝説は全国に有り、中でも岡山・香川・愛知がベスト3。しかし1位の岡山県は1960年町おこしのため、岡山県全体でプロモートした結果であること知る。ただ岡山県では桃太郎伝説ができる下地の史実があることを説明。ちょうどヤマト政権が勢力を全国に伸長する過程で、前方後円墳を各地に伝えたこと、岡山には巨大な前方後円墳が多くあり、ヤマト地方にとっても岡山（古代は「吉備国」）は扱いに苦慮していた地域であることを説明、吉備の発展には朝鮮半島の百済から製鉄技術を持った移民が移住していたこと、彼らを温羅（うら）と呼んだことを説明。このような実力者集団を支配下に入れるため、軍勢力を行使したことが考えられている。この一連の流れを正当化するため、吉備には悪さをする鬼（温羅）が住んでおり、それを退治するためヤマト政権が使者を送ったのが吉備津彦と呼び、これが桃太郎（健康）のモデルと考えられる。これに犬（仁）・猿（智）・キジ（勇）やきび団子（富）も加えられる。ちなみに岡山県には鬼やお供となった動物にまつわる人名や地名が各地に残る。例として5.15事件で暗殺された犬養毅首相の実家は、吉備津神社の近くに存在し、神社の前に犬養毅の銅像が立っている。</p> <p>とにかくヤマト政権の支配には正統性あるものという歴史認識へつなげたと考えられる。</p>
評価方法	プリントの内容理解と、発問に対する思考	
宿題指示	1回遅らせたが、次回ディベートの準備	

授業日	6/10(火)	1 学期授業回数	7 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・移民に関する複数の視点で検証する。 ・論題「日本は積極的に移民を受け入れるべきでない」		
時間 授業内容	5 時間目 6 時間目	5 班に分かれ、準備した内容を最終確認 3 回の対戦を行う。その中で肯定・否定両方の視点に長所・短所があることを知る。 短期的には対立を生むことは間違いないが、長期的には移民を受け入れてきた歴史を知る。	
評価方法	ディベートの準備・当日のシート内容、ディベーターとしての活躍		
宿題指示	特になし		

授業日	6/17(火)	1 学期授業回数	8 回目 / 全 9 回
本時	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】		

学習目標	本時の具体的な目標 ・日本に存在するお城をいくつか採り上げ、成立の経緯や歴史的出来事を検証する。 ・お城が人々にどのような影響を与えるかを探究する。	
時間 授業内容	5 時間目 トリップアドバイザー社調べ、人気のお城ランキングを提示 1 位：姫路城、2 位：松本城、3 位：熊本城…以下 10 位まで 日本城郭協会が選定した「日本百名城」のHPを生徒へ配信。その中から以下のお城の歴史的経緯や関連する出来事を紹介。 ・根室シャチ ・会津若松 ・江戸 ・大坂 ・熊本 ・首里 の各城並びに周辺情報を伝える。	6 時間目 6 時間目は、百名城のリストから各自脅威を持つ城を採り上げ、調べてそこから気づいたこと・興味を持ったことを調べてもらった。
評価方法	授業プリントの内容理解、並びに調べ学習の内容	
宿題指示	特になし	

授業日	6/24(火)	1 学期授業回数	9 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・神戸・西宮の歴史を概観し、当たり前のように思っていたことの沿革を知る。 ・それぞれの居住地や普段の生活エリアに存在する史跡・名跡から、歴史を感じ取る。		
時間 授業内容	5 時間目 神戸市の歴史を振り返る。神戸の名称が「生田神社」の神領「神戸（かんべ）」からきている。 古代「大輪より田泊・福原京」「源平一の谷合戦」「南北朝期の湊川合戦」・近代「神戸港開港」など、政治に絡んだ大きな出来事が発生。それは神戸という利便性が良く良港が備わってきたからなどを理解する。	6 時間目 西宮市の歴史では、まず西宮が「京都から見て西にある重要な神社＝廣田神社」が語源であることを理解する。現在では「西宮神社」は商売繁盛の「えべっさん」で有名だが、当社は本来廣田神社の「南宮」として発生している。それが時代とともにこちらが繁盛し、門前町も備わり有名となった。西国街道の宿場町としてまた江戸期に良質な宮水から酒蔵ができ、主要産業になったことなどを学ぶ。 その後各自で両市にまつわる中から気になったことを調べる機会を作った。	
評価方法	授業プリントの内容理解、並びに調べ学習の内容		
宿題指示	夏休みに現在考える「歴史探求」の大罪を考え、二学期の中間報告に備える。		

<2 学期>

授業日	9/9(火)	2 学期授業回数	1 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・夏季休暇中の成果報告 ・日本自然環境と歴史を考える		
時間 授業内容	5 時間目 日本列島の構造（南北にフォッサマグナ・東西に中央構造線、四囲に異なるプレートがある）を理解し、自然災害が避けられないことを認識する。また過去の自然災害がどのようなペースで発生しているかをデータで確認。先人たちが遺した記念碑の内容を知り、「学び・それを生かす」ことの大切さを共有。また有名な神社が先の断層沿いに設置されていることが多いことの原因を考える。		

	6 時間目	(鎮魂・災害封じの祈祷・加えて断層沿いに出土する鉱物を優先所有するため、という説を紹介) 6 時間目途中から、夏休み中に活動した記録と、「探究テーマ」として考えている素案を書き記させる。
評価方法	当日配布した授業プリント、および学びの記録	
宿題指示	現在考えている研究テーマの中間報告書をまとめる	

授業日	9/16(火)	2 学期授業回数	2 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・上ヶ原地区のフィールドワークに向けた事前学習。 ・探究テーマの選定・中間報告に向けた準備		
時間 授業内容	5 時間目	関西学院が創立された時期・場所、並びに西宮上ヶ原地区へ移転したいきさつを、社会情勢を踏まえて考察。神戸が開港された後、西欧列強が神戸に入ってきた。その流れを受けて宣教師ランバス氏が神戸原田に創立したのが関西学院。しかし当時は「その他専門学校」の分類にとどまっていた。明治期は官吏養成を主目的として、大学は東京帝国大学をはじめ官立学校（いわゆる旧帝国大学）しか認めていなかった。その後 1918 年第一次世界大戦後、世界の五大国の一つになった日本は、豊かさを社会に配電するため民間にも大学設置を許可した。しかしその要件には 100 万円の供託金を文部省へ提出しないとイケないものであった。関西学院ではまず資金をアメリカ本国へ打診したところ、スゲなく断られ「自己捻出」するよう伝えられた。よって資金獲得のため神戸の土地を売却し、当時辺鄙な西宮上ヶ原の土地を安く購入し、差額で 100 万円を作り文部省へ供出。そこでようやく「大学昇格」が認められた。その土地売買の仲介を担ったのが、阪神急行（現阪急）の小林一三氏。小林氏の経営方針は線路を引き郊外へ宅地を開発。その住人に電車を利用してもらうことで電鉄経営を循環させた。しかし小林氏は朝の電車利用者を、大阪神戸方面へ向かう住人の通勤客だけでなく、逆ルートの流れを作り出すことを検討。そこで考えられたのが今津線沿線に神戸地区の学校を移転することであった。その斡旋を受け小林聖心・関西学院・神戸女学院といった学校などが、神戸から今津線沿線へ移転した。上ヶ原に移った関西学院はヴォーリーズに建築依頼をして、スパニッシュミッション式の洋風瀟洒な建築群が建設された。2009 年には国の有形重要文化財に登録されている。このような流れで神戸から移転した関西学院の建築群を、生徒は目にしていることを確認。 調べ学習) ・上記の内容でさらに深く調べてみたいことを各自調べる。 ・夏季休暇中に訪れた史跡名跡についてまとめる。 ・また今後探究テーマとして考えていることを発表する準備を行う。	
	6 時間目		
評価方法	当日配布した授業プリント、および学びの記録		
宿題指示	今回はフィールドワーク第二弾として、同時期神戸から移転しヴォーリーズ建築群が現存する神戸女学院を見学予定。またミッション大学の敷地内に、地鎮神「岡田神社」があることも見学。これは神戸原田キャンパス内に原田神社があった事と同じ内容である。またテーマ選定の中間報告を行うための準備も行う。		

授業日	9/25(木)	2 学期授業回数	3 回目 / 全 9 回
本時	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】		

学習目標	本時の具体的な目標	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回授業で学んだ、阪急今津線沿線にできた学校として、「神戸女学院」へのフィールドワークを行う。 ・ 国の重要文化財に指定されているヴォーリーズによる建築群などを見学 	
時間 授業内容	5 時間目 6 時間目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神戸女学院の正門から敷地に入る。その際職員の方から地図や学校の要覧を配布される。 ・ 最初に敷地内にある「岡田神社」を見学した。関西学院が神戸原田の森にあった時と同じく、キリスト教の学校であっても、敷地内の産土神として祀られた神社を抱合してきた文化を知る。ちなみにこの神社は筑前国からやってきた岡田氏が廣田神社を作り、その後現地に住み社を作ったという。現在は廣田神社の末寺である。またこの神戸女学院がある岡田山には、「岡田姓」が多数散見される。歴史が連綿と続いていることを知る。 ・ その後は「国の重要文化財」に認定されたヴォーリーズ建築群を、生徒たちは順次見学した。本校と同じ建築家の作品であるため、スパニッシュ様式は何となく似ているが、女学院の建物はより創建時の建築群が多数残っていた。加えて敷地に残る自然の樹木がより重厚感を醸しだしているように感じた。関西学院よりさらに一段階評価が高い「国の重要文化財」ある理由が分かった。 ・ そのようなフィールドワークから、生徒たちがどのような点に着目しているか興味を持った。
評価方法	当日配布したプリントの内容	
宿題指示	次回は生徒による探究調査の中間報告。パワーポイントにて 5 分前後でまとめるよう指示。	

授業日	9/30(火)	2 学期授業回数	4 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】		
	本時の具体的な目標		
	・ 探究テーマ中間報告および夏休み活動報告		
時間 授業内容	5 時間目 6 時間目	上記探究テーマ中間報告および夏休み活動報告 (11 名分)	
評価方法	聴衆者が記入した発表評価。および担当者の評価		
宿題指示	次回発表者への質問やアドバイスを考える		

授業日	10/7(火)	2 学期授業回数	5 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】		
	本時の具体的な目標		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回発表した人に対するコメント・アドバイスを行う。 ・ そのうえで、探究テーマが重なる人同士でチーム作りを行う。 		
時間 授業内容	5 時間目 6 時間目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回 11 人が行った発表テーマに対し、聴衆した 10 名から質問や疑問・探究へ向けたアドバイスをを行う。 ・ 上記質問や疑問・アドバイを受け、自ら修正してテーマ探究を続けるか、テーマが重なる人同士でグループを作るか決める。 	
評価方法	他者への質問や疑問・アドバイスの内容		
宿題指示	次回修正した探究テーマに関し、再度中間発表を行うので、その準備を行う。		

授業日	10/23(木)	2 学期授業回数	6 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・「探究テーマ中間報告②」 ・日本最西端「与那国島」について		
時間 授業内容	5 時間目 6 時間目	9月30日（第4回目）に実施した、「研究テーマ中間報告」の後、似通ったテーマを選んでいる者同士で、グループを作ることを許可した。その結果11人が7グループに再編し、その後修正した探究テーマの中間報告会を行った。報告の後、質疑応答の場を作り、その場で答えることができるものには、応対してもらった。担当教師からも疑問・質問・提案を行う。 時間が余った約20分の間、担当教員が訪問した日本最西端「与那国島」に関する研修報告を行う。	
評価方法	聴衆者が記入した発表評価。および担当者の評価		
宿題指示	特になし		

授業日	11/11(火)	2 学期授業回数	7 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・有名な戦国大名の対決「川中島の戦い」を題材に取り上げる。戦いを通じて武田信玄・上杉謙信の戦争に対する考え、領民支配に対する考え方の違いを理解する。そこから現代に通じることを検証する。		
時間 授業内容	5 時間目 6 時間目	NHK その時歴史が動いた「激突 武田信玄と上杉謙信」～川中島の戦い、両雄決戦の時～映像を視聴し、決戦に挑むスタイル・戦い方・戦後の動き・領民への対応などを、随時解説。 観賞後、両雄の違いについて自分の考え方を述べてもらう。その後21世紀の現代にも生きる問いを立てる。	
評価方法	配布プリントの提出内容、および課題に対する取り組む内容で判断		
宿題指示	特になし		

授業日	11/18(火)	2 学期授業回数	8 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・前回授業でみた戦国大名「武田信玄・上杉謙信」に関し、各自が建てた「問い」を皆に共有する。それを題材にフォシリテータ役を立てて議論を深めた。		
時間 授業内容	5 時間目 6 時間目	前回 NHK ビデオにて戦国大名の武田信玄と上杉謙信の思想の違い・領民に対する思いをみた。謙信は義を重んじ王道を目指す、何より戦いの最中において敵軍の領民に迷惑をかけない（敵に塩を送る）に対し、信玄は途中負けようとも最終的に領民のために領地を増やせばよいという覇道を極める。彼らの生き方は21世紀の現在にも起こりえる考え方での違いである。 そのことを生徒は共通認識として持ち「問い」を立てた。それを題材に探究を発展させるため、ファシリテータ役の生徒を決め、まず自分ほどどちらの価値観を重視するか確認。その後各自が書いた「問い」について議論を展開させた。 その過程で「これは調べればわかる問いになっている」・「もっと条件を限定したり、未来へ生きる問いへ発展させたほうが良い」などといった批判や提案が次々と出た。	

評価方法	「問いを発展させる」評価シートの内容・ファシリテータとしての力量
宿題指示	今回は織田信長・または関ヶ原の戦いをテーマに講義を聞いたうえで、「問い」を立てる。時間が余ればファシリテータを立てて「問い」を展開させる。

授業日	11/25(火)	2 学期授業回数	9 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 ----- 本時の具体的な目標 ・ 織田信長の功績を通じて、現代に生きる「問い」を立てる		
時間 授業内容	5 時間目	戦国三傑とよばれる織田信長・豊臣秀吉・徳川家康に関し、誰が好きかのアンケートを取る。結果は家康 5 名・信長 4 名・秀吉 2 名であった。このアンケートは毎年受講生にとっており、圧倒的に「信長」に興味を持つ生徒が多い（平均して約 7 割）。同様のアンケートを大学 4 年生・それも教職をとる学生に行ったことがある。その際 8 割以上が家康を支持しており驚いたことがあった。これは信長の持つ革新性に憧れを持つ高校生に対し、地味であるが現実政治に生かす業績を行った家康を支持する大学生と、見る視座の違いであったように思う。その意味で言うとサンプル数は少ないが、本講座の受講生は見た目の派手さではなく、物事の本質を見る生徒が多いと感じる。 なお 5 時間目は織田家のルーツ。信長の直近の祖先が支配した「清州・勝幡城、津島」といった場所が、過去の地図を示したうえで陸上・海上交易の拠点であったことに着目させた。つまり織田家は信長が登場する前から経済的な拠点を支配していた。その観点を信長が生涯活用し続けたこと示唆した。	
	6 時間目	6 時間目には信長に関する短い映像を見たうえで、各人が信長の功績を調べる。そのうえで 21 世紀の現在にも生きる問いを立ててもらった。	
評価方法	作成したプリントの内容		
宿題指示	各自が立てた「問い」に関し、授業を展開する。		

<3 学期>

授業日	1/13(火)	3 学期授業回数	1 回目 / 全 6 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 ----- 本時の具体的な目標 ・ 3 学期のスケジュール発表 ・ 「関ヶ原の戦い」 概要確認 ・ 「関ヶ原の戦い」 から問いを作る		
時間 授業内容	5 時間目	戦国時代の末期「天下分け目の戦い」と言われる「関ヶ原の戦い」を採り上げた。 授業開始時に「関ヶ原の戦い」について、隣りの人に説明してみる。（意外と説明できない） NHK 高校講座日本史のビデオ「関ヶ原の戦い」の概要を視聴する。 この戦いは「豊臣 vs 徳川」ではなく、「豊臣 vs 豊臣」である。その理由としていずれの陣営にも「豊臣恩顧の大名（秀吉に恩義を感じる武将）」がいることを確認。つまり秀吉亡き後、豊臣政権の方針をめぐる家臣団が二分したことを学ぶ（文治派 vs 武断派）、この派閥は 21 世紀の社会においても存在することを伝える。その上で文治派を代表する三成に嫌悪感を持った武将たちが、家康側に参集していることから「豊臣 vs 豊臣」の戦いであったことを理解させる。勝敗の行方を決したのは、事前工作として家康が各地の武将へ手紙（50 日間に約 150 通になる）を送ったことにより、西軍方武将を当日寝返りや傍観させたことであった。	

	6時間目	歴史の裏舞台でこのような調略があった事を伝える。その後家康が征夷大將軍となり、260年を超えた長きにわたる政権を樹立。その政権では大名たちを「関ヶ原」の前から家康に従っていたものと、「関ヶ原前後」で家康に従ったもので分けた。つまり「関ヶ原」以前から家康に従っていたものを重用し、「関ヶ原前後」から家康に従ったものには幕府の職に就かせない、という仕訳をしたことである。その体制が200有余年続き、そのことが江戸幕末の展開につながることを伝え、次回の「江戸幕末」へのイントロとした。
評価方法	当日配布プリントへの記入内容、ならびに課題に対する取り組み	
宿題指示	「関ヶ原の戦い」に関連し、現在・未来へ生きる「問い」を考え、次回皆で検討する。	

授業日	1/20(火)	3学期授業回数	2回目 / 全6回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・ 前回授業で各自が考えた「関ヶ原の戦いに関する問」を発表し、それを用いて生徒が話題を展開させる。 ・ 次々回のディベート論題に関する映像をみて、ディベートシートに取りかかる。		
時間 授業内容	5時間目	「関ヶ原の戦いに関する問」の取りまとめを発表し、それを題材とし2人の生徒が話題を展開。 一人目のテーマは「なぜ石田三成は人望がなかったか？」 それに対し、性格面・職務面・ライバル家康との相対比較など様々な指摘が出た。結論は人との関わりが少ないと、多くの仲間から信頼されにくい、という結論をだした。 二人目のテーマは「家康のお手紙作戦のように、現代も情報戦が戦いを左右するか？」 戦国時代では戦況を変えるため、事前交渉（調略）が何よりも大切とされた。家康は「孫氏の兵法」とおり、敵の中から寝返りや傍観者を作ることで、戦況を有利にして勝利を呼び込んだ。現在でも情報が沢山あり、同様の工作は有効と考えられる。しかし簡単に精度の高いフェイクニュースが作ることができる、よって情報戦は現在でも有効だが、正しく使いこなすために真贋を確認する必要がある、と結論付ける。	
	6時間目	次に現在世界を震撼させている「トランプ大統領」の言動について考える機会を作った。具体的内容として、次々回の授業で「トランプ大統領の言動は正しい」と題したディベートを行う。それに先立ち1月3日に起こった「ベネズエラ襲撃・大統領夫妻拘束」に関する映像を視聴。また「グリーンランの領有」を目指すトランプ政権・およびEU8か国の対抗策に関する映像を視聴。多くの日本人にはトランプ大統領の言動は理解しにくい。しかしアメリカ国内には多くの支持者がいる。同盟国としてその理屈に同意しなくてもよいが、理論を理解する機会にしたい。	
評価方法	当日配布したプリントの内容。ならびに発表・評価者のシート内容。		
宿題指示	再来週実施予定の「アメリカ大統領トランプ氏の言動は正しい」に関する、ディベートの準備。		

授業日	1/27(火)	3学期授業回数	3回目 / 全6回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・ 論題「アメリカ大統領トランプ氏の言動は正しい」に関するディベート		
時間 授業内容	5時間目	・グループごとに分かれて事前準備	
	6時間目	・ディベート	

		基本的トランプ氏の言動に否定側が圧倒的に支持をされ、ディベート後も優位を保つ。 しかし一組は肯定側の意見を支持した。これはアメリカに軸足を置いたとき、トランプ氏の言動が支持されることが分かった、という意見からであった。
評価方法	事前配布した準備シート、ならびに当日のシート	
宿題指示	次回はフィールドワークを予定。その候補地に関しアンケートと要望を調査	

授業日	2/3(火)	3 学期授業回数	4 回目 / 全6回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 ----- 本時の具体的な目標 ・ 西宮神社へのフィールドワーク ・ 神社が如何にして大衆に受け入れられているかを検証		
時間 授業内容	5 時間目 6 時間目	阪神西宮駅に集合し、「西宮神社」へ参詣。 豊臣秀頼が寄贈したといわれる「表大門」・室町時代初期に建造された「大練塀」・廣田神社の境外摂社「南宮」（廣田神社の支社）・拝殿・本殿などで沿革などの解説を行う。その後約30分自由散策。その際各自2つ以上独自の視点で「問い」を見つけ、それを調査する。最後に本殿を前に記念写真を撮る。	
評価方法	当日配布したプリント・調査報告書		
宿題指示	最後の回に「問い」に対する中間報告を行う。		

授業日	2/17(火)	3 学期授業回数	5 回目 / 全6回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 ----- 本時の具体的な目標 ・ ピアティーチングを通じて、自分たちの学びの成果をまとめ、他者に的確に伝える。 ・ ピアティーチングを通じて、他の科目の学びの報告を聞き、フィードバックで貢献するとともに、新たな気づきや視点を得て、自らの今後の学びに活かす。		
時間 授業内容	5 時間目 6 時間目	・ ピアティーチングの説明 ・ ピアティーチング(20分×4)・移動時間込み	
評価方法	学びの記録		
宿題指示	学びの記録		

授業日	2/24(火)	3 学期授業回数	6 回目 / 全6回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 ----- 本時の具体的な目標 ・ 各自の探究テーマ、年度末の発表		
時間 授業内容	5 時間目及び 6 時間目	各自の探究テーマ、年度末の発表	
評価方法	各自の発表内容、他者の発表評価		
宿題指示	答案返却時に、次年度授業内容の要望をまとめる		